

保育者のわかる・かわるにつながる研修の提案 2

○ 川邊尚子(保育のデザイン研究所)

宮里暁美(お茶の水女子大学)

★研究動機

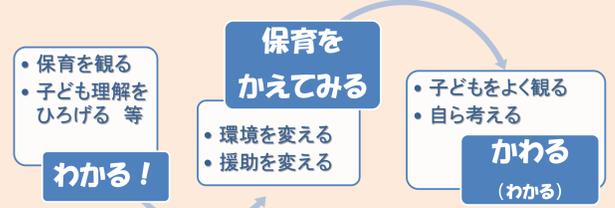
筆者が勤める研究所は、各法人の状況を把握し、より効果のある研修を共に探り提案している。研修の中で受講者が学んだことを「わかる」と実感し、園に戻った際に「かわる」につながるためには、どのような要素が必要なのだろうか。本研究においては、座学の講義に加え、モデルとなる園見学を実施することで、具体的な理解を深めることをめざした。受講者が、研修受講後に実践を改善していく経過を追うことを通じて、「わかる」から「かわる」につながるSTEPを明らかにしたい。

★研究の方法

調査対象：B法人中堅保育士23名
 調査期間：平成29年11月～平成30年4月
 調査方法：[研修] ①保育指針改定の解説(平成29年11月8日)
 ②文京区立お茶の水女子大学こども園(以下A園)(平成29年11月9日)
 ③見学レポートの作成(平成29年11月9日)
 [事後] ④アンケート調査(平成30年1月)
 ⑤インタビュー調査(平成30年4月)
 調査内容：見学でわかったことが、自園に戻った際に、改善に結びついたか、また園内の他の職員に伝え、組織的な改善に結びついたか。

★研究の目的

- * 保育者が何事かを理解し(わかり)、それを自分の保育の中に活かす(保育をかえる)までのプロセスを追い、何事かを「わかる」段階から、自身の保育や園の在り方が「かわる」ということにつながる研修の在り方について検討する。
- * 保育者の「わかる」と「かわる」につながる研修方法を提案する。



* 本研究は一連発表である。
 (1)の研究者 = 園を公開する主体者(園長)
 (2)の研究者 = 研修を企画する主体者
 それぞれの立場で「保育者のわかる・かわるにつながる研修」を実施し成果を検討することを通して、研修の在り方について提案する。

★研究の内容 「わかる」と「かわる」がつながるためのSTEP

STEP1 これから求められる保育を理解する。

[研修] ①保育所保育指針改定の解説(平成29年11月8日)

これから求められる保育を学び、それらを基本として、見学したことが個々の学びにつながるよう、指針改定の解説を行った。講義では、指針の重要なポイントとなる「環境を通して行う保育」と「保育の内容(3視点・5領域)」の理解につながるような事例を、事前にA園で写真に撮り、それらを用いて解説を行った。指針は、改定前においても「読んでいない」「読んでよくわからなかった」という声が多かったが、事例を基に解説することで、理解が深まったようである。



STEP2 「何を知りたいか」を明確にする。

研修の最後に、講義をふまえて、見学プランを立てた。
 ◎自分の保育を振り返り、こんな保育をしたいと考えたことを書いてみる。
 →それを実現するためにA園で観たいことは何か。

記述によると、保育者主導の保育をしがちであった園が多く、指針の内容について学ぶことによって、「子ども主体」「子どもの関心に沿った環境づくり」などに関心が高まっている様子が見えてきた。

例) Cさん
 今は保育士主体の保育になっている。子ども主体の保育をしたい。
 →子どもたちが何に興味を持ち、自ら遊びを見つけ、発展させていくのか。

例) Dさん
 子どもの意欲を尊重し、その活動にじっくりと関わり続けたいには。
 →子どもの遊びの発展や展開に対する保育者の関わりや環境構成。

例) Eさん
 主体的な遊びをのびのびと表現して楽しめる保育。
 子どもの考える表現したい遊びの実現。
 →保育士のかかわりや環境構成、子どもの遊び方、保育士の声かけ。

STEP3 「かわる」ための改善プランを立てる。

[研修] ②A園の保育見学(平成29年11月9日)

子どもが主体的に遊ぶ場所や玩具、時間を保障することによって、子どもが自ら育つということ、子ども園の環境や子どもの姿、保育者のかかわりから見て学ぶ機会となった。B法人は、全国各地に各地域の状況に合わせた規模で保育所を運営している。A園の環境とは当然重ならない部分も大きく、「まねできない」「自園では実現不可能だ」と感じることもあったようだ。しかし、「どのような保育を目指したいか」ということを、指針に沿って各自目標を立ててから見学を行ったことで、改善に向けての具体的な方法を探ることができたようである。



[研修] ③見学レポートの作成(同日)

各自の見学プランを基に、見て学びにつながった「事例」を挙げて「振り返り」を行い、それを基に「具体的な改善プラン」をレポートにまとめた。

例) Cさん
 目が行き届かないところで遊んでいるだけでケガをするのではないかと、安全面に不安を持ちすぎていると改めて感じた。禁止用語が多く一斉にとらわれすぎているので、個人を大切にしたい保育にしたい。一人では変えられないので、園全体に伝えて、全員でできることから取り組んでいきたい。

例) Dさん
 環境が子どもたちを大きく成長させることが分かった。子どもがやりたいと思うことを十分に続けていける場所、時間を確保し、見守り、必要な時に寄り添える言葉をかけていく。

例) Eさん
 子どもが自分で考え、試して、学んだりなど、いろんな力を育むことができるような環境づくりをめざし、子ども主体で考えた計画を立てたい。

STEP4 環境や援助をかわってみる。

[事後] ④アンケート調査(平成30年1月)(回答者18名)

1か月後に、アンケート調査を行った。園見学が、「かわる」ことへの動機づけになっていることがわかる。

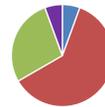
1) 研修後、意識しながら保育をしたことはありますか。

| | | |
|------------|----|------|
| ①ある | 18 | 100% |
| ②ない | 0 | 0% |
| ③どちらともいえない | 0 | 0% |



2) 当日のレポートにまとめた具体的な改善計画を実行しましたか。

| | | |
|--------------------|----|-----|
| ①書いたことをすべて実行してみた | 1 | 6% |
| ②一部実行してみた | 11 | 61% |
| ③実行しようと思ったができなかった。 | 5 | 28% |
| ④実行しようと思わなかった。 | 0 | 0% |
| ⑤忘れていた | 0 | 0% |
| ⑥その他 | 1 | 6% |



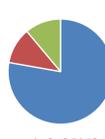
3) その他、見学や研修の影響を受け、考えたことや試したことはありますか。

| | | |
|------------|----|-----|
| ①ある | 15 | 94% |
| ②ない | 0 | 0% |
| ③どちらともいえない | 1 | 6% |



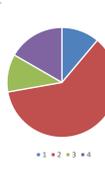
4) その他、研修後、園内で他の職員に研修内容を報告しましたか。

| | | |
|------------|----|-----|
| ①した | 14 | 78% |
| ②しなかった | 2 | 11% |
| ③どちらともいえない | 2 | 11% |



5) 園内で共有し、改善したこと、又は実行はしていなくても計画を話し合ったことはありますか。

| | | |
|----------------|----|-----|
| ①改善したことがある | 2 | 11% |
| ②改善はまだだが、計画はある | 11 | 61% |
| ③特にない | 2 | 11% |
| ④その他 | 3 | 17% |



STEP5 子どもの姿から、かわったことを実感する。

[事後] ⑤インタビュー調査(平成30年4月)

アンケート調査に、特に詳しく記述のあった3名に、電話によるインタビュー調査を行った。A園見学から「子ども主体の保育」や「子どもの興味関心をふまえた環境作り」などへの理解を深めたことで、新年度をまたいだ現時点においても、環境改善による変化を実感している様子が見える。

◎決まった時間に行っていた体操をやめた

研修後、環境を改善してよく遊ぶようになったものの、決まった時間に体操をしているので、遊びが途切れるし、片付けのストレスがあった。「体操は絶対にやらなければならないわけじゃないよね」という考えも始まり、体操をやめた。そのおかげで、遊ぶ時間が長くなり、保育者も、子どもにとってもストレスが少なくなったんじゃないかと思う。(Cさん)

◎環境構成は、子どもの様子が把握できてから始めた

新年度、クラスが変わり、だっ広い部屋をどう使おうか悩んでいたが、ようやく子どもの様子が把握できたところで、環境を変え始めたところ。構成できるものが少ないので、テーブルやイスを使って絵本、ままごと、ブロック、製作などのコーナーを作った。子どもたちは自分の好きな遊びを探そうになっているし、くつろぐ場所を見つけて、やりたいことに取り組んでいるように見える。(Dさん)

◎子どもの発想を手伝うことが、保育士としての楽しさだと思う

子どもの発想を手伝うことで、遊びが充実していることを実感している。子どもがやりたいことや欲しいものを伝えてくるようになってきた。子ども自身が遊びを通して経験値をあげているので、できることがどんどん増えてきていて、自信になっていると思う。生き生きと遊んでいると感じる。これが保育士としての楽しさなんだと思うようになった。(Eさん)

[アンケートの回答より]

例) Cさん

ただ玩具を広げるだけだった。



見立て遊びができるように、スポンジやチューリング、お手玉などを準備し、テーブルやイスもセッティングをした。お店屋さんごっこや見立て遊びから、友だちとの会話が広がっている。



例) Dさん



保育室内の環境を大きく見直し、おもちゃが自由に取り出せるコーナーをつくり、手作りおもちゃを充実させた。

例) Eさん



どういった環境を整えると、じっくりと主体的な遊びを楽しめるのか、子どもの遊びの姿を見て、玩具等工夫したりしてみた。

★結果

- ・指針に記述されている保育の内容を実践している園を見学することは、具体的な理解を促す。
- ・「理論」と「実践見学」が結びつき具体的な理解が促されることによって「わかる」ようになる。
- ・「わかる」ようになると、環境や援助を「かえてみたく」なる。その気持ちが熱い時に改善計画を立てることで、実践の場に戻った時に、環境改善にとりかかりやすくなる。さらに、環境や援助がかわると、子どもの姿が「かわる」ことを実感する。

つまり! 研修がわかる・かわるにつながるためには、理論と実践の結びつきが具体的にみえること、更に自らの保育を「かえたくなる」よう受講者自身の主体的な思考を促し、具体的な計画を立てることが有効なのではないだろうか。